

国際親善大使として…



まず、はじめに、新年あけましておめでとうございます。

2008年は派遣学生のみなさんにとっては旅立ちの年ですね。

みなさんにとって明るく飛躍する年になりますように願っています。

ROTEXもできる限りサポートをしていきたいと思うので、本年もよろしくお願いします。

さて、今月のテーマは、「国際親善大使として・・・」です。

オリエンテーションなどで、この言葉をたくさん耳にするとと思いますが、一体、国際親善大使って何なんだろう？どんなことを求められているのか、何をすればいいんだろうと感じませんか？この役目は以外に難しくないのかもしれませんが、ROTEXの声を参考に自分にできることを広げてみて下さい。

また、今月の小ネタ特集は「学校生活～友達編～」です。

派遣先での友達の作り方を盗んじゃいましょう。

すぎおか みき
杉岡 美季 【2005度韓国派遣】



感謝の気持ちから生まれる行動こそ…

ロータリーの交換留学生に選ばれたということは、みなさんは同時に日本の親善大使に選ばれたということです。親善大使と聞くと少し堅苦しくて難しいイメージがあるかもしれませんが、つまりは「日本代表」です。日本代表と聞くと今度はプレッシャーを背負ってしまうかもしれませんね。ただこのようなプレッシャーは少しくらい感じていてちょうど良いと思います。

派遣学生の持っている影響力は派遣先ではとても大きなものです。私は韓国で1年間を過ごし帰国間近になった頃、何人かの友人に「日本のイメージがかわった」と言われました。幸い私の場合は、悪いイメージから良いイメージにかわったと言ってくれたので安心してしています。その背景には、多くの人々の協力・サポートに対する感謝の気持ちと、それに応えようとする努力があったからだと思っています。

今、派遣学生のみなさんはこれから始まる留学生活に、期待で胸を膨らませているでしょう。中には不安で心配している人もいるでしょう。みなさんは多くの人に支えられています。きっと自分が考えている以上に多くの人が

ちにです。だから大丈夫です。胸を張ってください。そして、それら多くの人々に感謝する気持ちを忘れないでください。そうすればその気持ちは自然と行動に表れ、立派な親善大使になれることでしょう。

いしがき しずか
石垣 静香 【2006 年度オーストラリア派遣】



親善大使…ちょっと角度を変えて見てみよう

皆さんこんにちは。派遣が決まってから2ヶ月が過ぎ、徐々に派遣へ向けての準備が進んでいると思います。準備にも色々ありますが、その中でも大切なのは皆さんは”ロータリー交換学生”として派遣されることです。ロータリーの交換学生は、派遣先で日本を紹介する大使として派遣され、また日本と派遣先を結ぶ役割として派遣されます。

日本を紹介するということから、私が主に派遣先でやったのは、プレゼンテーションです。最初は頼まれてやるが多かったのですが、派遣されてから半年たったころからは自主的に活動をしました。主に派遣先のロータリークラブや学校などでしましたが、時には近くの小学校で折り紙を教えたり、ステイ先の近所の学生に毎週1回日本語を教えていたこともありました。プレゼンテーションを準備するのはたいへんですが、このような素晴らしい機会を現地の人が与えてくれるのは、私たちが「ロータリー交換学生」だからです。またプレゼンテーションを通して人と交流することでいろいろな人と知り合うこともでき、この交流で日本と派遣先を結ぶ役割も十分に果たせると思います。

ここでひとつお勧めがあります。それは派遣される前に1つPower Point(1)で、プレゼンテーションを用意しておくといいと思います。(これは私が派遣先にいたとき、現地の派遣学生がやっていました) 場合によっては現地でプレゼンテーションの内容を指定されてしまうこともあると思いますが、自分の住んでいる場所や学校のこと・スポンサークラブ・ロータリー2780地区のことなどを発表できるようにしておくといと思います。

「親善大使」という言葉を聴くと、とても難しく何をしたらよいか分からない人もいますが、まだ派遣まで時間は十分あるので「ロータリー交換学生」としてできることをこなして行ってください。そしてこの留学は、ロータリーの人の協力によってあることを忘れずにがんばってください。

(1) Power Point: 正式名称を「Microsoft PowerPoint (マイクロソフト パワーポイント)」と言う、マイクロソフトのプレゼンテーション用ソフトウェアのことです。会議や発表で使う スライドや配布資料を作ることができます。

おおぬま えり
大沼 恵理 【2006 年度アメリカ派遣】



友達になろう、そこから広がるもの

遅ればせながら…皆さん、ロータリー青少年交換派遣決定おめでとうございます。これから皆さんは、ロータリーJapan 第2780地区の青少年交換学生として、且つ日本からの親善大使としてそれぞれの派遣先で生活していくこととなります。それでは、今回のR2のテーマ、「親善大使」として派遣先ですべきことは何なのでしょう。

まず感謝の気持ちを忘れず、礼儀正しくいること。これは当たり前のことです。そこにもう一つ挙げたい点があります。「明るく元気にいること」です。この印象が、相手に友好的な印象をあたえるのではないのでしょうか。私はこの点について失敗しました。留学時初期、私は勉強ばかりしていました。学校でも友達と話すことよりも、宿題やテストなどを優先させていました。結果周りから私、つまり「日本人」はお堅い人間であるという印象を抱かれてしまいました。このことで学校の同級生達からは勉強ができるという信頼感を得ましたが、友達としての友好性はありませんでした。さらにロータリアンの方々からも、日本人はつまらない奴だという印象を抱かれてしまいました。人間同士のコミュニケーションに友好性がなくて何が嬉しいのでしょうか。

ビジネスだけの関係で本物の友好的な関係を築くことが可能なのでしょうか。ロータリー青少年学生は「親善大使」として派遣していただくのです。目的はビジネス的な関係を築くことではなく、友好的な関係を築くことにあるのです。派遣先でたくさんの友達を作ってください。そしてその楽しそうな姿をたくさんの現地の人々に見せてあげてください。きっとそこには異国間の友好の掛け橋がかかっているはずです。

…ですが、先にも述べたとおり感謝の気持ちを忘れず礼儀正しくいることも大事。ちゃんと両立させてくださいね。

こたに みぎわ

小谷 汀【2006年度フランス派遣】



日本で、派遣先で、受けた恩返し

ロータリーの留学で得たことは大きいです。

バストリップでさまざまな国からの留学生との出会いは貴重でした。さらに自分のロータリークラブでの行事や食事会はもちろん参加しましたし、経済的にも現地のロータリアンが負担をして下さいました。日本のロータリーについても同じです。事前のオリエンテーションで、人前で話す度胸が育てられたし、ローテックス行事で日本文化について触れ、今まで知らなかったことを学ぶことができました。こんな素晴らしい体験を無償でできるのはめったにないと思います！

だからこそ、私は何かロータリーの国際親善という目標を少しでも達成させられるようにしていた気がします。実際自分は大きなことはできませんでしたが、留学先でお世話になった人、出会った人と仲良くして、日本について、ロータリーについて少しでも知ってもらえるよう、好感を持ってもらえるようにしました。(具体的に言うと・・・日本についてよく話してみたり、スケッチブックを見せたり、留学に興味のある子にロータリーのことを話してみたり、ホストファミリーに日本で撮った写真の上映会を行ったり)また、ロータリーの例会には、毎週通い(私が行ったことに意味があったかは疑問ですが・・・)ロータリアンの皆さんとの交流に努めました。

派遣先のロータリーの例会、学校のクラス、ホストファミリーの前などで日本を紹介できるスケッチブックかなにかをもっていくといいと思います。

ロータリーの学生として自覚を持つと考えると少し難しいですが、自分の行動ひとつひとつに責任をもつことが大切かもしれません。

わたなべ え

渡辺 ゆり恵【2006年度 ブラジル派遣】

日本人としての誇りを持つ

まず、この留学が、本当に多くの人々の支援により成り立っているのは、留學生活中、日々ひしひしと感じることかと思います。影でいつも自分を支えてくれている多くの人(ロータリー関係者、家族)に、感謝の気持ちを持つ事は、この留学で大切なことの1つであると思います。その表し方は、どんなことでも良いと思います。自分のできることを、率先してやったら良いのではないのでしょうか！

Rotaryの交換学生で、海外に行くこと＝自分がその国の代表であること！ただ、その言葉に国家的な、など、そんな大それたことではないので、プレッシャーにしないで全く良いですよ。私が派遣された地域は、日本人留学生が私しかいなかったのだから「私＝日本」というイメージを与えていたと思います。だからこそ、自分の国の素晴らしさ、国民性の素晴らしさを、できるだけ多くの人と交流を持って、できるだけ多くの人に伝えられたら良いと思います。派遣先で、多くの国からの留学生と出会うチャンスが多いと思います。たくさんの国の留学生に囲まれることで、自分が日本人であるという事をドゥブリ感じると思います。これはチャンスなのです！自分の存在により、

多くの方が日本について興味を持ち、日本のファンを増やせるなんてすごいチャンスです！まず、自分が日本人だという、誇りを忘れないで下さい。

そう！できるだけ多くの人に携わり、少しでも日本という国を知ってもらうこと！日本人を知ってもらう事は、この留学に込められた意義の1つなのではないかと思います。もちろん、自分も、人々とのふれあいから、多くのことを吸収して、自分自身も、大きく成長して欲しいです！

小ネタ特集

学校生活、、友達できるかなあ、そんな不安いっぱいあったけれど、いつのまに消えていた気がする。なんでかなあ。。。その秘密教えちゃいます。



どうやって友達作りましたか？

<アメリカ>

- ・目があったら、“Hi”とあいさつして友達になりました。
- ・同じクラスの子達、特に ESL（英語を母国としない人のための）クラスで外国人同士仲良くなれた。
友達は作ろうとして作るものではなく、その場の雰囲気になれるものなので、とにかく言葉に不自由していても明るく振舞うことが大事だと思います。ただ1つ思ったのは、年度の始まった時は割りとみんなが友達を作る気が満々でフレンドリーに接することが出来ますが、時間が経つにつれて友達同士で固まることが多いので最初のほうにたくさん知り合いを作っておこうとすると後々いいかなと思いました。
- ・うーん、むずかしかったです。映画みたいな歓迎ムードとか、日本がみんなの憧れっていうわけでもなかったのので、クラスの隣の人に話しかけたり、部活に入って自分から無理やり入って行きました。部活が一番自然と友達ができた気がします。
- ・ホストシスターの友達から広がっていくこともありました。
- ・同じ授業を多く取っていた子達と仲良くなりやすかったです。席が近い子にでも積極的に話していくことも重要だと思います。あと、プロジェクト等のグループワークが多くあるので、それも友達作りのいいきっかけになりました。
- ・自分でランチタイムに女の子たちのグループに「一緒に座ってもいい？」って話しかけました。とっても勇気がいったけれど、その時の人たちとは1年間ずっと仲良しでずっとランチを一緒に食べました。わたしが日本からの留学生だということで話しかけてきてくれる人もたくさんいました。クラスが一緒になった子も含めほとんどの子が優しくしてくれ、逆に私が名前を知らない子達も廊下で会うと hey と声をかけてきてくれました。

<オーストラリア>

- ・最初は、とりあえず笑顔でたくさんの人に話しかけました。最初は自分でお昼を一緒に食べる友達を探していたけれど、2、3日すると友達が誘ってくれました。昼休みを利用して、折り紙を一緒に折ったり、写真などを見せたりしてどんどん友達が増えていきました。
- ・気が付いたら友達がいました！最初は学校に慣れるので精一杯でした。しかし授業を受けたり、ハウスミーティングやイヤーミーティングの集会に参加するうちに皆と話すようになり、自然と友達ができました。私は話しかける勇気がなかったので、アピールとして日本の携帯やおかしなど持ちあるいていました。すると日本の物に興味を持った人が話しかけてきました。それからだんだん自分から話しかけるようになり、友達の輪が広がりました。

<カナダ>

- ・同じ学校のホストシスターと最初は一緒にいました。同じクラスで話しかけてくれた子には次に会ったときは自分から話すようにしました。
- ・最初は全く出来ませんでした。何とかしようと思ってまずはホームルームのメンバーの名前を先生に助けをもらいながら覚えてみんなの前で言うと言うことをしたりもしました。偶然にも日本人のハーフの子が居て彼女とは始めのほうから知り合いでしたがすごく親しいわけでもありませんでした。でも途中で悩みをうちあげたら私達と一緒に居ようよといわれてそれから仲良くなりそこから友達の輪も増えました。

<韓国>

- ・向こうから話しかけてくれることが多かったので、学年、クラスを問わずに友達を作ることができた。
- ・友達か、友達じゃないか微妙な関係の人にもとにかく挨拶！すると友達が増えていきました。

<台湾>

- ・できるだけ自分から話しかけるようにして、つくりました。

<スウェーデン>

- ・クラスは人数が多くなかったので、一緒に行動しているうちにクラスの子とは仲良くなることが出来ました。最初は英語での会話でしたが、スウェーデン語が話せるようになると、もっと会話が進み、話題にものごとができるので、英語で会話していたときよりも数倍仲良くなれたと思います。彼らからもたくさんスウェーデン語やスウェーデンについて教えてもらいました。

他には、ホスト兄弟の友人や同じクラスの上級生、ホスト従兄妹など日に日に顔見知りが増えて、挨拶や少し話をしている間に友達がいっぱい出来ていました。いつも笑顔でいて、学校ではいろんなことに積極的に参加したりすると多くの人に会えるのでいいと思います。

<フランス>

- ・クラスがあったので、毎日ほとんどの授業はその子たちと同じだったので、自然と友達になった。特に仲良くなった子は調べものの授業で同じ課題に取り組んだ子たちでした。他にもバレーボールのクラブで仲良くなった子、ホストシスターの友達、日本に興味のある子たちなどです。

<ブラジル>

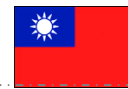
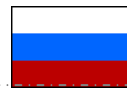
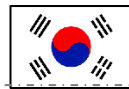
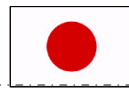
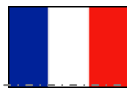
- ・友達は、学校に行ったら自然とできると思うので、心配しないでください。みんな暖かい雰囲気、近づいてきてくれます！はじめは、カタコトでも、友達とコミュニケーションしようとしたら、どんどん助けてくれます！恥ずかしがらなくてよいのです、挑戦しようとする姿は、相手に通じます！まずは挨拶からでよいのです！！スマイルでいれば、どんどん友達ができるとおもいます！そして、友達が友達を紹介してくれたい、どんどん広がります！はじめは少し緊張するかもしれませんが、静かであるより、とりあえず何かしゃべったら、自分自身の成長にもつながるし、相手もうれしいと思います！その国の人になっちゃう気持ちでちょうどいいとおもいます！
- ・友達（友達までいなくても知り合い）ができるとう達の友達を紹介してくれるので、その時にできるだけ、話しかけようと努力しました。

<ロシア>

- ・積極的に話しかけたり、あとは日本語の授業の時にアシスタントとして他の学年とかに出向いて友達を作ったりしました。
- ・基本的には同じ学校の友達とよく遊んでいました。同じ留学生同士は同じ境遇と言うこともあり固まりやすいですね。



簡単な挨拶をきっかけに友達ができるけれど、その勇気を出すのは以外に難しかったり、、、
友達の友達から、部活で広がった、授業で仲良くなった、と友達を作るチャンスはたくさんありそうですね。



R²は当 2780 地区多くのローテックスの方々、
ガバナー事務所の協力を基に発行されています。
多大なる尽力に感謝いたします。

R²編集長： 宇多川薫 (2002 年度アメリカ合衆国)